

「緑の募金」では、これまで森林ボランティア団体への支援を通して、国土の緑化推進に取り組んできたところです。しかし、国土緑化運動が開始されてから67年が経過し、森林資源は利用可能な状況となっておりますが、森林・林業を取り巻く厳しい情勢の中で伐採がされない森林が増えていきます。このため緑の募金では、木材を使うことが健全な森林造成にとって重要であることを踏まえ、本年度は『植える』緑化から『使う』緑化へをスローガンに掲げ、木を『植える』、『育てる』、『伐る』、『使う』という森づくり・森の循環づくりを推進することとして、これらの活動に取り組みボランティア団体への支援を進めているところです。

一方で、「緑の募金」を団体活動の資金として活用しようとする団体数はここ数年横ばい傾向にあり、森林ボランティア団体の実態並びにそのニーズに対する調査を実施したこと



ろ多くの森林ボランティア団体が「新規会員・参加者の確保」、「継続的な活動」、「後継者育成」、「他団体、自治体・企業との連携方法」という4つの課題を共通して抱えていることが明らかとなりました。

そこで今回、新たなコンテンツで参加者の裾野を子育て世代や若者、青年層へと広げ、さらに、若手を活かす組織づくり、森林課題を教育や福祉等の地域の課題と組合せ、社会に繋ぐ組織づくりを行うなど様々な工夫によってこれらの課題を克服し、活発な活動を行なっている団体の活動を紹介し、問題解決のためのヒントとなるキーワードを拾い上げ整理しました。

また、より多様な森林ボランティア団体に「緑の募金」を幅広く活用いただけるよう、これからの「緑の募金」による支援のあり方を探るための座談会を開催しましたので併せて紹介します。

もくじ

2 ■ 次世代につなぐ、ボランティア団体に聞いた“森林・里山”の新たな関わり方と組織づくり

参加者が会員となり、会員がリーダーとして楽しく活躍できる組織づくり
NPO 法人 いがり 自然学校

6 「里山的“生き方・暮らし方の提案”を追い求めて
NPO 法人 里山倶楽部

10 人のつながりが、里山の新たな可能性を育む
NPO 法人 よこはま里山研究所

14 関わる人の多様化を生み出すネットワークづくり
矢作川水系森林ボランティア協議会

18 ■ 特別取材
街から森へ人を呼びこむ魅力づくりとは
NPO 法人 モモンガくらぶ

20 ■ 4つの課題をクリアするためのポイント・ヒント

- ① 新規会員・参加者の確保
- ② 継続的な活動
- ③ 後継者育成
- ④ 他団体、自治体・企業との連携

■ 座談会

24 新たな森林・里山づくりに求められる「緑の募金」のこれからを探る

30 緑の募金アンケート概要

32 おわりに

